

教育民生委員会がAIドリル・ 養育費などについて行政視察

松江市議会議員 舟木 健治

松江市議会・教育民生委員会の行政視察について概要を報告します。

視察一日目は、さいたま市の「グローバル・スタディ」です。市内小中学校の小1から中3まで一貫して行う市独自の英語教育です。単なる語学学習にとどまらず、コミュニケーション力向上、グローバルな視野の育成をめざし、オリジナル教材づくりやAIの独自雇用など指導体制の充実とセットで行われていました。

視察二日目は、横須賀市の「養育費確保支援事業」と「終活支援（わたしの終活登録）」です。離婚後も子どもが健やかに成長するには養育費の確保が重要で、養育費相談や費用補助などの事業が行われていました。また、身元がはっきりしている市民の遺骨が引き取られない事態の解消のため、終活情報を市に登録する事業がすすめられていました。

視察三日目は、東京・足立区の「AI型ドリル教材を活用した基礎学力定着推進」です。確かな学力の定着のため、教員の授業力向上として教科指導専門員の配置や、個別に応じた学習の充実の一環としてAI型ドリルを小3から中3まで導入されていました。AIで把握したつまづきをどう教師が個別支援につなげていくのかが重要と感じました。



横須賀市での視察の様子

建設環境委員会が最新の建設技術・ リユース、リサイクル先進地を視察

松江市議会議員 たちばな 心み

松江市議会・建設環境委員会の行政視察について報告します。市議会常任委員会の行政視察は年に1回。今年5月中旬に3市を回り以下の3点について学びました。

- ① 神奈川県座間市【ゴミ減量対策】ICT技術で回収を効率的にリユース事業
- ② 千葉県松戸市【国交省関東技術事務所】災害復旧を安全に行う無人化施工技術
- ③ 東京都調布市【給食調理残菜資源化と環境学習】

① 神奈川県座間市【ゴミ減量対策】ICT技術で回収を効率的にリユース事業
ゴミ収集を効率化。パッカー車にスマホを取付け、収集状況を把握し、進捗によって各車が助け合い、収集時間が短縮できたそうです。その他リユースリサイクル推進課の活動は市内の中学校の制服を統一しリユースを促進など多彩な活動を学びました。



建設技術展示館で照明車など視察

② 国交省・建設技術展示館では、石川能登地震でも活躍した、災害対策本部車両や照明車などを視察。危険個所で作業するための「無人化施工技術」について学びました。雲仙の土石流災害をきっかけ

に無人化技術はすすみ、福島第一原発事故の処理で建屋の撤去等を行ったとのこと。③ 調布市では、NTT東日本が所有する「超小型バイオガスプラント」を活用し給食残菜で発電し資源循環について学び食育推進を行っているとのことでした。今後の議会活動に活かしてまいります。

「なぜ日本は原発が止められないのか」 青木 美希 氏講演会開催

どうする島根原発？みんなで決める松江の会

5月19日（日）、どうする島根原発？みんなが決めよう松江の会は「なぜ日本は原発が止められないのか」と題して青木美希氏の講演会を開催、150名が参加しました。

また今年1月の能登半島地震で、震源地に近い志賀原発（石川県）では、油漏れや構内でのひび割れが多数発生していること、外部電力が一時停電したこと、そのうえ、北陸電力がこうした事故の公表を遅らせ事故隠しを行うなど、被害を明らかにする姿勢が見られないことを告発しました。

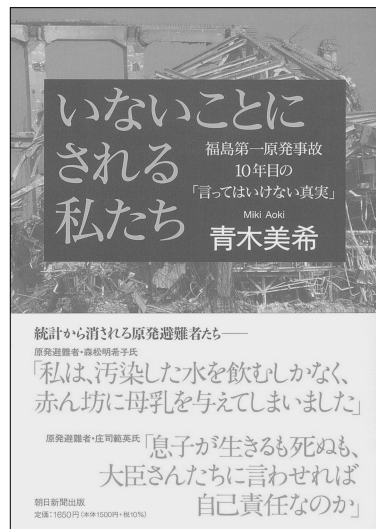
青木氏は新聞記者・ジャーナリストで、東日本大震災が起きた翌日から現場で取材、「手抜き除染」などを告発し新聞協会賞を受賞。そして、「地図から消される街」「いないことにされる私たち」「なぜ日本は原発を止められないのか？」等の著書を通じて、福島第一原発事故の実情を告発し続けています。

青木氏は、福島原発や能登半島地震で危険にさらされながら取材した動画やスライドを示し、福島原発事故から13年が経過しても放射能汚染が続く現状、避難解除地域でも、役場と家は10軒ほど、病院や消防も何もないとして、復興が進んでいない状況を紹介しました。

能登半島地震の被害現場では、今でも地震の後始末がほとんど進んでいない状況を紹介。土砂崩れなどで、避難ルートが閉ざされて、孤立した集落が多数生じたこと、放射能対策が行われている避難施設で、トイレが使えなくなり、臨時のトイレが屋外に設置されて



青木氏の講演に聞き入る参加者



青木氏の著書を紹介します

文春新書 1433

なぜ日本は原発を止められないのか？

青木美希

「安全神話」に加担した 政・官・業・学

マスゴミの大罪!